

【河川】雄物川圏域の減災対策協議会

令和5年度 雄物川危機管理演習を開催しました！

令和 5年11月17日
湯沢河川国道事務所

1. 概要

- 危機管理演習は、雄物川圏域の減災対策協議会における「雄物川の減災に係る取り組み方針」に基づき、大規模氾濫を想定し、ロールプレイング方式により行いました。
- 本演習は、今後の大規模氾濫時への備えとして、河川管理者と自治体が協力して作成した”避難指示等の発令に着目したタイムライン”の検証・改善および防災対応行動の確認・習熟を目的とし、今回は湯沢市と湯沢河川国道事務所が合同で実施しました。

2. 開催日時・会場・スケジュール

- 日時：令和5年11月17日（金）
- 会場：湯沢河川国道事務所および湯沢市役所
- 参加者：湯沢市、秋田市、横手市、大仙市、仙北市、秋田地方気象台、秋田県（平鹿地域振興局、雄勝地域振興局）、JR東日本秋田支社、東北電力、防災エキスパート、湯沢河川国道事務所 約100名参加
- スケジュール：

1. 開会・挨拶（湯沢河川国道事務所 松原所長）	8:35～8:40
2. 演習直前説明、初期情報の確認	8:40～9:00
3. ロールプレイング型図上演習	9:00～12:00
4. 演習後の意見交換会・講評	14:30～15:40
5. 閉会・挨拶（湯沢市 佐藤市長）	15:40～15:45

3. 主要演習項目（※特に本演習で着目した項目）

1. 収集した情報の迅速かつ的確な整理・共有・伝達
※関係機関等の状況把握、関係機関への情報伝達
2. 的確な状況判断（夜間の急激な水位上昇に対する避難情報発令等）
※河川管理者から自治体へ避難に寄与する助言・情報提供
※災害対策用機械による減災対応
3. 住民に対する迅速かつ的確な避難支援・広報
4. 河川管理者と流域自治体の緊密な連携

4. 演習場面

- 演習想定日時は、梅雨前線の発達に伴い湯沢市域に大雨をもたらす気象状況の中、「2024年7月17日17時演習開始」とし、雄物川及び皆瀬川等が夜間に急激に水位上昇する設定とした。
- 被災想定は、国で管理する雄物川や皆瀬川の堤防漏水や溢水・越水のほか、湯沢市内における土砂災害や内水被害などを想定した。時間の経過とともに、水位が上昇し、堤防が決壊に至り、大規模氾濫が発生する想定とした。

5. 演習状況



湯沢市役所演習会場



湯沢河川国道事務所演習会場



ホットラインによる情報提供



リエゾンによる情報共有

6. 演習に対する感想等



松原所長挨拶

- ・タイムラインに基づき、「洪水予報や避難指示等の発令のタイミング」、「水位や河川施設被害の情報共有」、「ホットラインにおける情報伝達」などを検証する。
- ・演習で日頃からの情報共有を更に密度の濃いものとし、大規模氾濫時の情報共有の漏れをなくし、逃げ遅れ「0」に向けた避難誘導に結びつけたい。

意見交換会での意見・講評

- ・雄物川上流部はここ数年大きな出水は発生していない。訓練や備えが非常に大事だと感じている。
- ・関係機関と協力しながら、情報を共有しながら対応を進めていく必要があると思う。実際の災害では非常に混乱する場面もあると思うので、いかに落ち着いて整理していくかが大切であると感じた。
- ・被害状況がわかるような仕組みが必要である。特に災害が発生している地域およびそれに伴う避難指示がどの範囲で起きているか等が一目で分かるような形で対策できればよかったと思っている。
- ・今回Webを繋ぎ相手機関の状況を確認しつつホットラインで情報を伝えられたのが非常に有効だった。



佐藤市長挨拶

- ・我々の責務は地域住民の皆様の生命・財産を守ること。災害はいつどこでどのような形で起こるか予測できるものではない。
- ・訓練をしっかりと重ね、状況を検証しながら熟度を高めていくことで市民の皆様を守ることに繋がるとあらためて思った。